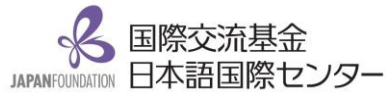


作文の教え方

Unit 2 実践 Part 2 文章を書くプロセスと授業



1. はじめに

ではこのパートの学習に入りましょう。

- 前のパートでは、課題（タスク）を作るときのポイントを紹介しました。課題（タスク）が完成したら、いよいよ授業です。授業中どのような活動をすれば学習者は文章（テキスト）を完成させることができるでしょうか。
- このパートでは、文章（テキスト）を完成させるまでにたどる「書くプロセス」3つについてまず確認します。その後、授業でそれぞれのプロセスを扱うときの活動例を紹介します。

このパートのキーワード

動機づけ 書くプロセス 計画 文章化 ^{すいこう}推敲 思考ツール

2. 書くプロセスと授業

文章は、「計画」「文章化」「^{すいこう}推敲」という3つのプロセスを経て完成します。計画のプロセスでは、書きたい内容を整理し、文章の構成を決め、言語項目をそろえます。それらをもとに、具体的に文章化していきます。一通り書いたらもっといい文章にするために^{すいこう}推敲します。^{すいこう}推敲

とは、文章を読み返し、よく考えてもっといい文章に書きなおすという意味です。これら3つのプロセスは、順番に進んでいくのではなく、頭の中でモニタリングすることで、進んだり戻ったりしながら少しずつ完成に近づけていくのが普通です。授業ではこれらの作業の負担をできるだけ軽くし、書く力を向上させるための工夫が必要です。

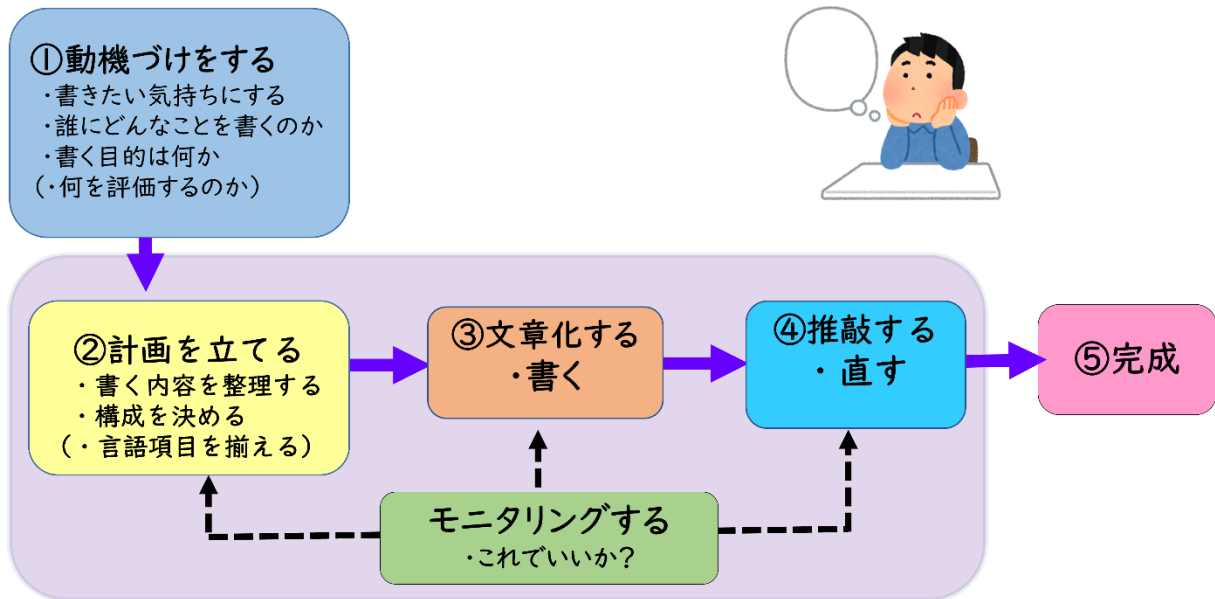


図1 書くプロセス

Unit1で確認したように、日常生活の中では、書き手の中に先に「書く目的」があって、書くという活動を行っていました。ところが作文の授業では「書く活動」のほうが先に設定されています。そこで、まずは学習者を「書きたい気持ち」にさせるため、授業では「動機づけ」から入るようにします。

① 動機づけをする：目的・内容・文章の種類・読み手／評価対象を確認する

前のパートでは、日常生活で実際に行っている書く活動を取り入れた課題の作り方について

て扱いました。授業は実際にその課題を使って、課題に興味を持ち、書きたい気持ちにさせる動機づけから始めます。前のパートで考えた書く活動は「ブログを書く」ですから「例えば教師は「ブログを書いている人はいますか」「書いている人はどんなことを書いていますか」「書いていない人はどんな内容を見たことがありますか」などと問いかけ、ブログとは何かを確認します。そして「日本人の目にとまり友だちが増えるよう、日本語で書くことにチャレンジしてみよう」と提案します。これは学習者にとって大きなチャレンジです。このように日本語で書くことの意義を共有したあと、課題の指示文を見せ、テーマ、書いてほしい内容、字数などを共有します。そして、評価シートも提示し、最終的に何を評価するのか確認・共有します。指示文や評価シートは日常生活にはないものですが、言語教育という側面には欠かせないためここで扱います。評価シートについてはU2P3で紹介します。ここまでの活動は誤解がないよう母語などの共通言語で行った方が理解が早いです。

② 計画を立てる：イメージマップを使った内容整理

どんな目的で、何に、どんなことについて書くのか理解できたら、計画を立て始めます。内容の整理を始めましょう。内容の整理をするときは思考ツールを活用すると便利です。思考ツールにはさまざまな種類がありますが、今回はイメージマップを紹介します。

イメージマップは、大きなテーマを一番上に書き、そこからイメージするキーワードをテーマの下に 2 つか 3 つ書いていきます。こんどはそのキーワードからイメージする具体例を書き、どんどん数を増やしていきます。なるべくたくさん出すことが大事なので、内容を考えていると

きは母語を利用するのもいいです。完成した図がこのようになります。

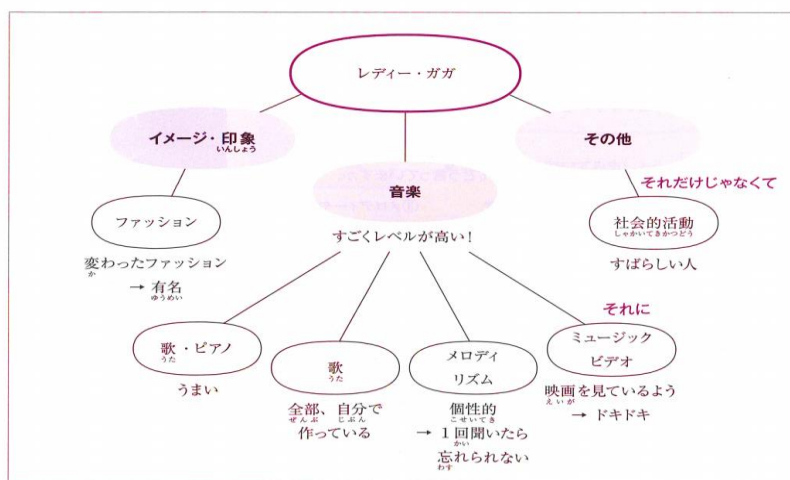
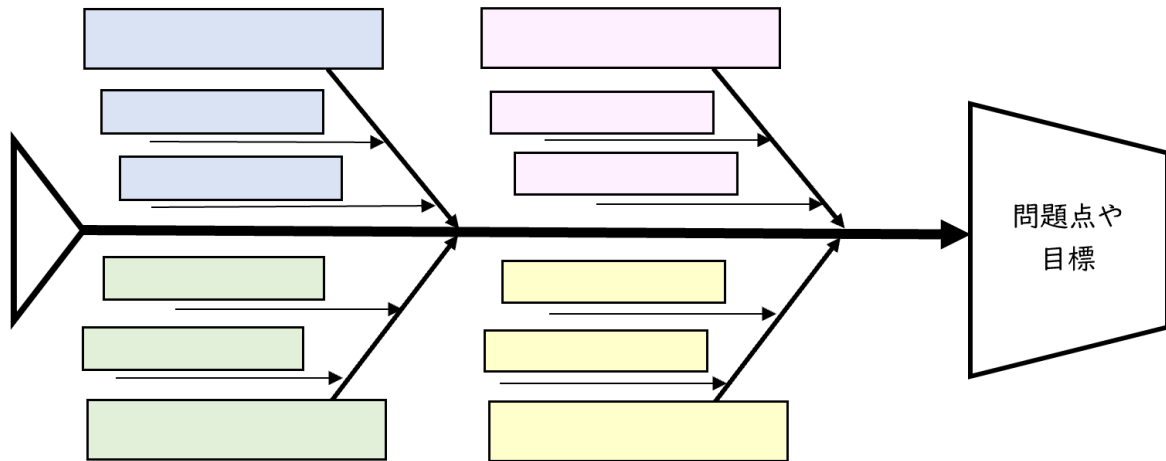


図 2 完成したイメージマップ

イメージマップを使うと、全体と部分の関係がわかり、頭の中にあるアイデアを一枚の絵のように見渡すことができます。すべてのアイデアが出た後は、書く順番に番号をつけて構成を考えることもできます。

【タスク 1】思考ツールの一つに、「フィッシュボーン」があります。フィッシュボーンは、解決したい課題（達成したい目標）と個々の要因（目標達成のカギ）の関係を整理したいときに利用します。



使い方は以下のとおりです。

- ① 頭の部分に解決したい問題（達成したい目標）を書く。
- ② 中骨にその問題の原因となる要因（目標達成のカギとなる要因）を書く。
- ③ 小骨に②の具体的な問題や提案を書く。

「日本語学習の意欲を高める」を目標に設定し、上のフィッシュボーンを埋めてみましょう。

② 計画を立てる: カラーのふせんを使った内容整理

もう一つ、内容を整理する方法を紹介します。みなさんは「ふせん」を使っていますか。ふせんには、青、ピンク、黄色、緑などいろいろな色がありますが、その色を利用して書きたい内容の整理ができます。ここでは青には好きなアーティストのイメージ、ピンクには歌、黄色にはSNS、緑には私の意見を書くことにして、どんどん思いついたことを書いて山にしていけます。いらなくなったふせんは途中で捨ててかまいません。たくさん揃ったら、同じ色のふせんの中で順番を並べ替えて書く順番を決めます。ふせんに番号をふれば、構成を考えることもできま

す。ふせんはたくさん使えるうえ、貼ったり剥がしたり移動したりできるのでその手軽さが魅力です。このようなふせんを使った計画の立て方もぜひやってみてください。

② 計画を立てる：必要な言語項目をそろえる

内容が揃ったら、今度は内容と言語と結びつける活動を行います。クラスメイト同士で協力しあう活動をやってみましょう。活動は、次のように進めます。

まず、ペアまたは小さなグループを作ります。一人が話し手、それ以外が聞き手になります。話し手は自分が書いた思考ツールを見ながら書きたい内容を話します。うまく言えなかったことがあれば、あとで調べるためにそれをメモします。録音してもいいでしょう。

ひととおり話し終わったら、聞き手は内容や言語表現について気づいたことをコメントします。最後に改善案を考えます。クラスメイトは最も身近な読み手です。クラスメイトからコメントをもらうことで考えが整理でき、読み手の視点を意識した内容に改めることができます。慣れないうちはコメントしあうことに抵抗を感じる学習者がいるかもしれません。最初からはうまくはいかないかもしれませんが、学習者同士の信頼関係が高まるにしたがってだんだんできるようになってきます。

③ 文章化する

書く内容を整理して、構成を考えたら実際に書くプロセスに入ります。文章化のプロセスで1つ考えておきたいのは、辞書を使うメリットとデメリットです。学習者にとっては頭の中にいい

アイデアがあっても日本語でどう表現すればいいのかわからなかったり、自分が書こうとしている語彙や表現が自分の考えを表すのに一番いいものかどうか判断できなかったりすることが多くあります。そのようなとき、表現の幅を広げてくれるのが辞書です。辞書を使うと、豊富な語彙が使えるようになります。

しかしながら辞書を使うときは注意が必要です。例えば、英語の recommend に対応する日本語を調べるためにインターネットの辞書サイトを使ったとします。すると、このような結果が出ました。「^{すす}勧める、^{しょうれい}奨励する、^{ちゅうこく}忠告する」「^{すいせん}推薦する、^{すいしょう}推奨する、^{すす}勧める」。たくさんあります。



図3 インターネットの辞書で^{けんさく}検索した結果

同じような意味を表す語でも、文章の種類、読み手、目的などを考えて1つを選ばなければなりませんから、調べた結果出てきた語が自分が書いている文章にあっているか確認する必要があります。辞書は学習者にとって欠かせないものですが、何も考えずにコピーして使うこ

とがないよう指導が必要です。適切な語を選ぶために、例文を見たりインターネットで^{けんさく}検索してその言葉がどのように使われているか確認するのもアイデアです。

【タスク 2】下の文で使うには「視界」「視野」どちらがいいか、辞書で調べてください。

車を走らせていたら、突然大きな鹿が（^{しか} ）に飛び込んできた。

★サンプルの文章を利用する

さて、ここまでは計画を立て、文章化し、推敲して完成させるという3つの一連のプロセスを、学習者に主体的にやってもらう活動を紹介しました。この方法は、すでに、ある程度言語に関する知識を持っている学習者に向いている進め方です。

日本語で書くことに慣れていない学習者や、いきなり書くことに^{ふたん}負担を感じる学習者に対しては、サンプルの文章を利用するのも一つの方法です。動機づけの後、すぐに計画を立てるのではなく、計画を立てる前にサンプルの文章を読み、どのようなことをどのような構成で書けばいいのか、どのような語や文法を使えばいいのか確認する時間を設けます。

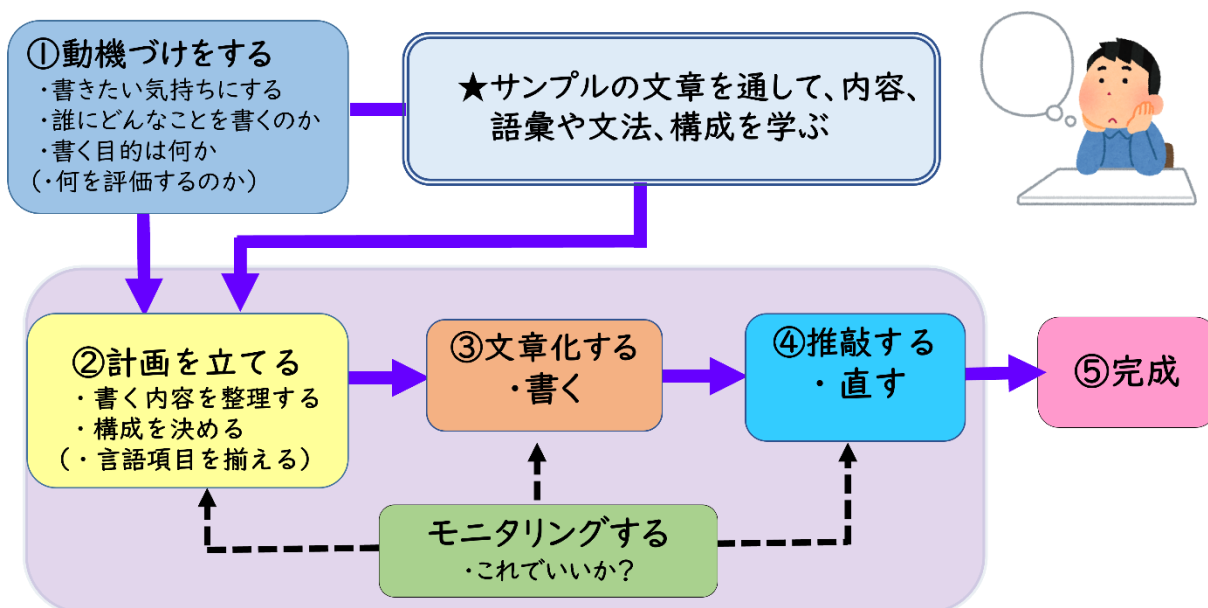


図4 サンプルの文章を利用した作文授業の流れ

例えばこのような、サンプルの文章を使います。好きなアーティストについて書いているブログの例です。

このサンプル文章でできることは・・・

- | | | |
|--------------------------|---|---|
| 1 段落
好きなアーティスト
の紹介 | { | 私が好きなアーティストは、レディ・ガガです。ガガは変わったファッションで有名ですが、彼女の音楽はすごくレベルが高いんですよ! 歌もピアノも一流なんです。何と言っても彼女のすごいところは全部自分の歌を自分で作っているところです。 |
| 2 段落
好きなところ1 | { | 私が特に好きな曲は「Born This Way」です。歌詞が英語なので意味をすべて理解した ⁽¹⁾ わけではないのですが、心が折れそうになったとき、私はこの曲を聴いて気持ちを奮い立たせています。メロディーやリズムが個性的だし、 ⁽²⁾ 一度聞いたら忘れられない魅力があります。ミュージックビデオも ⁽³⁾ まるで映画を見ているようで、見る ⁽⁴⁾ たびにドキドキします。 |
| 3 段落
好きなところ2 | { | 彼女はツイッターの女王でもあり、たくさんの名言を残しています。私が一番感銘を受けたのは、「私は第二のマドンナになりたいわけじゃない。私になりたい ⁽⁵⁾ のは、レディ・ガガ!」ということばです。短いのに、 ⁽⁶⁾ 何て力強い言葉でしょう! |
| 4 段落
まとめ | { | 私も、レディ・ガガのように、他人のコピーではなく、他人が真似できないぐらいオリジナリティのある人間になりたいと思います。レディ・ガガ、絶対お勧めです! |

作文のサンプルにする文章の例

一度目は、速く読んで各段落にどのようなことが書かれているか確認します。このサンプルでは、1段落目で好きなアーティストの名前とすごいところを紹介し、2段落目で音楽やミュージックビデオで好きなところ、3段落目で2つ目に好きなところ、具体的には特に印象に残った名言について書く構成になっていますね。そして、最後4段落目には、まとめと読み手へのメッセージが書かれています。自分が書くブログも同じ構成にすれば負担が軽くなります。

2回目に読むときは、丁寧に。内容について細かく見ていきます。学習者は、これまで習ったことがない言語項目が気になるはずですから、語彙や文法、表現などの確認もします。

例えば、2段落目です。(1)「わけではない」。部分否定を表す言い方ですね。(2)「一度～たら」、(3)「まるで～ようで」、(4)「～たびに」 などがあります。3段落目には(5)強調を表す「～のは～です」。そして(6)「なんて～でしょう」、感心の気持ちをあらわす表現もあります。このサンプルには6つ新しい表現がありましたが、自分のブログに必ず入れなければならないというわけではありません。習った語彙や表現を使うことを目的にブログを書くのではありません。目的は「好きなアーティストを紹介するブログを書くことです。」文章化のプロセスでは、自分が伝えたい内容を表現するのに合っていれば使うよう指導してください。

3. まとめ

このパートをまとめます。

- 文章(テキスト)は、「計画を立てる」「文章化する」「推敲する」というプロセスを経て完成します。

- 授業では、学習者を書きたい気持ちにさせる「動機づけ」から始めます。

そして課題(タスク)の内容を確認します。評価シートを提示し、最終的に何を評価するのかも共有します。この段階は母語などの共通言語で行った方が、誤解がなく理解が早いです。

- 「計画」のプロセスでは、思考ツールを活用します。思考ツールを使うと、効率的に内容を整理し構成を考えることができます。

- 辞書で調べた語を使うとき、例文を見たりインターネットで^{けんさく}検索したりして、適切かどうか確認するといいです。

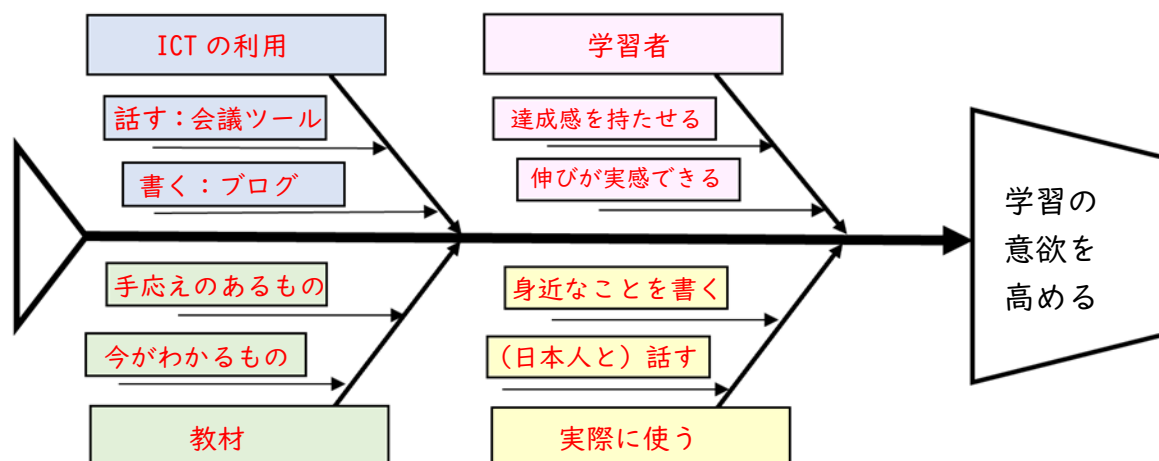
- 学習者の負担を軽くするなら、動機付けの後すぐに「計画」のプロセスに入るのではなく、サンプルの文章を用意し、内容・構成・言語項目を学習してそれにならう方法もあります。

■ このパートの^{さんこうぶんけん}参考文献

- ・黒上晴夫、小島亜華里、泰山裕 「シンキングツール®～考えることを教えたい～(短縮版)」 http://ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf
- ・国際交流基金(2010)『書くことを教える』(国際交流基金 日本語教授法シリーズ8) ひつじ書房
- ・国際交流基金(2016)『まるごと 日本のことばと文化 中級 I B1』 三修社

■ タスクの答え

【タスク 1】書き込みの例



【タスク 2】goo 辞書 (小学館『デジタル大辞泉』)

<https://dictionary.goo.ne.jp/thsrs/997/meaning/m1u/%E8%A6%96%E7%95%8C/>

(2021年10月15日検索)

車を走らせていたら、突然大きな鹿が(しか **視界**)に飛び込んできた。